

ほっかいどうの社会保障

2014年10月10日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

公的責任で住み続けられる地域を 〈へ〉なんと財務省が「介護報酬6%ダウン」提案

道内各地で住み続けられる地域づくりをめざして、学習会や宣伝、署名活動、自治体との懇談、要請行動が広がっています。

釧路 市と懇談、保険料等で改善求める

釧路社保協は、10月6日、釧路市介護高齢課と懇談し、要支援者への支援や特養、保険料、介護従事者の確保など問題で懇談、要請しました。



◆介護保険料については、市の一般会計から介護保険会計へ財政繰り入れを行い、引き上げを抑えるように要請しました。

介護報酬の大幅引き上げこそ必要

介護制度の充実のために、介護報酬の大幅引き上げが必要で運動が広がっています。しかし、財務省は、8日の財政制度等審議会で、特別養護老人ホームやデイサービスなどをはじめ介護報酬を大幅に下げを提案しました。介護関係団体などから「介護崩壊をまねきかねない」など批判が相次いでいます。

「1%下げると1000億円軽減」（財務省資料）
○税金▲520億円（国と地方 各▲260億円）
○保険料▲410億円（高齢者分▲190億円）
○利用者負担▲70億円

分科会「安心して住み続けられるまちづくりは？」

北海道社会保障学校

でも学習、交流します。

「健康で住み続けられること」は、みんなの願いです。そのためには、所得保障、住宅保障、医療、福祉（介護）などの制度の充実が必要です。今年度は、来年度からの高齢者保健福祉計画や介護保険事業計画の作成の年です。介護をめぐる現状や成立した医療介護総合法の内容を学び、どうすれば住み続けられるまちが作れるのかを学習し、経験など交流します。



小講演 「安心して利用できる介護保険制度をめざして」

講師 石井秀夫さん 社会福祉法人札幌南勤労者医療福祉協会常務理事

住民運動で町立病院を存続させた、白老町立病院を守る友の会の代表や『孤立死をなくそう』と結成した苫小牧市沼の端地域ネットワークの代表からの報告もあります。

「笑顔でくらしたい」

好評発売中

定期購読を



（隔月発行 年6回 定期購読1部600円 北海道社保協）

「道民私たちの暮らしを良くするために、本誌は必読です」

木下武徳教授推薦（北星学園大学社会福祉学部）

最新刊 2014.10 第78号 主な内容

- ◆ 住民運動で町立病院存続へ（白老町）
- ◆ 改悪された介護保険制度にどのように地域でたたかうか（札幌社保協 斉藤浩司 事務局長）
- ◆ 生活保護引き下げ反対訴訟に勝利するために

北海道社会保障学校 in 室蘭

19日

誘い合って参加しましょう！